

## 2 中高連携授業変革の歩み

### (1) 揖斐郡池田町立池田中学校における実践

#### < 授業実践 >

授業実践に向けての構え

#### 1) 昨年度の成果と課題から本年度へつなげたこと

つけたい力を中学校3年間だけでなく、高等学校まで見据えて考えることができた。特に、高等学校でも反応表現が大切であることが分かったので、中学校1年生の段階から相手に反応できるように指導していくこととした。

必然性のある会話の場面を設定することの大事さを再認識することができた。生徒が、英語を使って、課題を解決しなければならないという授業展開を積み重ねていくようにしていく。

#### 2) 英語科としての重点内容

授業における必然性のあるペア、グループ活動の位置付け

個に応じた指導のために柔軟な学習集団編成の工夫

特に、上の2点は、英語科教員全員の共通理解のもと指導に当たった。

#### 第1回授業研究交流会

【日時】 平成14年 6月 25日(火)

#### 【公開授業】

- ・ 単元名 Lesson2 What is this?
- ・ 授業学校 学級 池田中学校 1年1組
- ・ 授業者 水野 幸弘
- ・ 主な提案内容



グループごとにクイズ番組を企画し、英語で進め、それに仲間が答えていく活動を通して、必然性のあるペア、グループ活動を位置付けた。

会話練習では、ペアでの活動を行ったり、実践的な会話の場面では、たくさんの会話の機会や話の発展を求めグループやスクランブルで話させたりするなど、学習集団編成の工夫を図った。

生徒同士の会話を深まりのあるものにさせるために、反応表現(聞き手)やつなぎ表現(話し手)を普段の日常生活でも導入し、相手に応じて会話ができるよう工夫した。

#### 【授業研究会】

列ごとに順番に相手を入れ替ながらクイズを出し合う形態をとったため、全員の生徒が出題者、解答者に必ずなり、対話が自然に行われていたのがよかった。

相手の質問や問いかけに応じて、反応表現を選択しながら会話を続けることを、さらに高等学校でも大事にしていくことをあらためて確認できた。

授業の指示を、教師が全て英語で行い、生徒もそれに十分に反応することができていた。

個に応じた指導のための柔軟な学習集団の工夫においては、ALTの位置付けが弱く、改善の余地が見られた。

安易に「Good job!」と評価せずに、アドバイスをして、さらに上を目指させるようにしたいとの指摘を高等学校の先生方から受けた。

#### 第2回授業研究交流会

【日時】 平成14年 10月 30日(水)

#### 【公開授業】

- ・ 単元名 Lesson6 School in the USA
- ・ 授業学校・学級 池田中学校 1年6組
- ・ 授業者 船田 はるみ
- ・ 主な提案内容

自分や相手以外の第三者について、好きな物や持っている物を説明したり、相手に質問をし、さらに相手の質問に答えたりすることで情報交換をし、必然性のあるペア・グループ活動の位置付けを行った。

交流会では、相づちを打ったり、お互いに質問をし合ったりして対話を続けることを大切にした。

#### 【授業研究会】

3年間を見通して、つけたい力をきちんと考え、系統的に指導していることがよかった。

ペアでの対話活動においては、生徒が粘り強く仲間にインタビューを行い、コミュニケーションへの意欲が感じられた。

活動の中で、教師が伸ばしたい表現や姿をよくつかんで、生徒に広げていくことができていた。

生徒が会話をする必然性があったかどうか疑問である。日常での会話に照らし合わせて、その活動は適切かどうかを判断し、ペア・グループ活動の位置付けをさらに充実させたい。

生徒がさらに英語で反応できるように、教師自身も英語を多用することを高等学校の先生方と確認した。

#### <グローバル・スタンダードにおける英語力診断>

- ・ ケンブリッジ英検 2002年 8月実施

【考察】 全体的に、どのレベルにおいても Speaking の得点が高かった。それに対して弱い力は、Listening である。相手が何について尋ねているのか、その意向を十分に理解できない生徒がみられる。そこで、普段の授業では、さらに ALT が積極的に生徒に話しかけたり、生徒間の会話においても一方的なものにならないように、必ず相手の話に反応したりするなどの工夫をしている。

#### <イマ ジョンプログラム>

##### Immersion Program の実施報告 1

【日時】 8月 5日(月) 9:00 ~ 12:00

【場所】 池田中学校 コンピュータールーム

【指導者】 Jennifer, Takahashi, Funada, Mizuno

【活動内容】 対象 2年生 20名

参加生徒は、2グループに分かれて、講師の Jennifer にインタビューを行い、彼女の故郷である Toledo City (アメリカ オハイオ州) や、彼女自身について紹介するパネルを作る。グループごとに、質問する内容を決め、後でお互いのグループごとに交流していく。

できたパネルは、校内に掲示し、活動に参加しなかった生徒へも情報を広めていく。

#### 【活動の様子】

生徒は、普段の授業で学んだ表現を活用しながら、ALT と進んで会話をする事ができた。

「Where is your favorite place in Toledo?」「What is your impression when you came here?」など、多少難しい表現であっても、聞こうとする意欲があった。

一方的なインタビューでなく、Jennifer から質問をすることで、交信型の会話をする事ができた。もっと尋ねたいという必然性のある場面設定をしていかなければならないと感じた。



完成した作品と参加した生徒たち

## Immersion Program の実施報告 2

【日時】12月 27日(金) 9:00~12:00

【場所】池田中学校 家庭科調理室

【指導者】 Dann, Randy, Kumiko Takahashi,

【活動内容】対象1年生 22名

相手の話に対する受け答えや反応ができるようにする。

調理実習を通して、その国の文化を知るとともに、調理に関する英語を習得していく。

【生徒の様子】

英語を話すことにためらいがなく、楽しそうに Give me ~? と新しい表現にも挑戦していた。

体験を通して、英語を学習していくので、必然性のある表現が多く、I want ~ とまだ学習していない表現でも進んで話すことができた。

## Immersion Program の実施報告 3

【日時】12月 28日(土) 9:00~12:00

【場所】池田中学校 家庭科調理室

【指導者】 Mellow, Kumiko Takahashi,

【活動内容】対象2年生 20名

カナダのことについて True or False で答え、他国の文化について理解を深めていく。

カナダ出身のセリーヌ・ディオンの歌を聴き、歌詞の穴埋めを行い、聞き取る力を育成する。

カナダでよく作られる Sugar Moose Cookies を英語を使いながら調理する。

【生徒の様子】

カナダについての True or False クイズが終わった後には、たくさんの質問が出た。他の国について興味をもち、もっと知りたいという意欲が見られた。

セリーヌ・ディオンの歌を聞き取ることは大変難しかったが、一生懸命に活動する姿が見られ、One more chance! などと何度も挑戦しようとする生徒が見られた。

調理実習では、自然に英語が話され、Thank you. Here you are. You did well. など場面に応じた反応や受け答えができていた。

イマ ジョンプログラムの活動中の表現を分析したところ、約80%が授業で学習した表現であった。その結果から、授業でも日常生活で生かされる表現をさらに導入していくことが、実践的コミュニケーション能力につながると実感できた。

< 成果と課題 >

授業における必然性のあるペア、グループ活動の位置付けでは、クイズやインタビューなどの場面を設定し、必ず相手に話しかけたり、答えたりしなければならない活動を工夫することで、活発な対話ができるようになった。相手にすばやく反応できる生徒も多く見られるようになってきた。

高等学校では、自分の考えを英語で表現すること、4技能のバランスのよい活動を行うことを大事にしていた。その基礎的な力を中学校でも連携して養うべく、ペアやグループでの活動の際には、自分の気持ちを反応表現やジェスチャーを活用して伝えたり、4技能を盛り込んだ必然性のある対話活動を行ったりすることができた。

個に応じた指導のために柔軟な学習集団編成の工夫では、まだ改善の余地がある。ALT との効果的なTT等の指導の在り方をさらに工夫するとともに、生徒が知りたい、言い表したいという思いがさらに満たされるように、学習集団や活動の内容を工夫していきたい。

活動における既習の表現の利用割合

